

フィル
ハーモ
ニー
東京ハ
東ハ

音楽の楽しさ体感

本通小でワークショップ

函館本通小学校（花田讓校長、児童346人）に11日、東京フィルハーモニー交響楽団の5人が訪れた。8月に同校でフルオーケス

トラによる本公演を行うのを前に、楽器の仕組みなどについて理解を深めるワークショップを開いた。文化庁主催の「文化芸術

による子どもの育成事業」の一環。メンバーは楽器の解説を交え、「剣の舞」などクラシックの名曲を演奏した。ホルンの高橋臣宜たかひらみさんが「ホルンの管は全部伸ばすと4倍になる」と話すと、子どもたちから歓声が上がった。

また、なじみの薄いクラシックにも親しんでもらおうと、ベートーベン作曲「運命」に合わせてボディーパーカッションを指導。児童は手や腹、足などを使って

出す音を楽しんだ。

このほか、オーケストラとの共演で披露するオリジナルの歌詞づくりに向け、函館や学校の良いところについて意見を交わした。

児童会長の米谷美咲さん（6年）は「演奏はCDと違って迫力があつた。本公演に向けて良い歌詞を作りたい」と話していた。

（稲船優香）



演奏に合わせてボディーパーカッションを楽しむ児童